不器用な僕。（沖神）

芙実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
不器用な僕。（沖神）

【Ｎコード】
Ｎ８０９２Ｄ

【作者名】
芙実

【あらすじ】
最近、ことあるごとに学校図書館に通っている沖田。その理由とは？

その時、僕に恋を教えてくれたのは君だった。

～不器用な僕～

俺は今、柄にもなく学校図書館にいる。
別に意味は無い…訳じゃない。
俺がここにいる意味は…

「まぁた来たアルカ。」

やっぱり居た。
俺以上に柄になく図書委員をやってるコイツは
毎週水曜日が当番だ。

「別に来てもいいだろィ。」

「よくないネ。雰囲気が悪くなるヨ。」

やっぱりコイツはつれないわけで。

ーーーお前は知らないんだろ？

俺がこんなにお前を思ってる事を。

「あれっ、ほォっ！！とォっ！！」

俺がそんなこと思ってる間にコイツは上の段に入っている本を取ろうとしている。

「おりゃっ！あ、よっしゃっ！…ゎあつ！！」

勢い任せで取るもんだから本は勢いよくコイツの額に当たった。

「っつァ～。いったぃなァ～。」

「計画性がまったくねぇな。あと、反射神経。」

額をなでながらコイツは俺を涙目でにらんだ。

「うるさいアルっ！！重力ネ！！引力ネ！！私のせいじゃないアル！！」

そういいながらコイツは本を拾った。

「どうせ行くとこないから来てるんだロ？」

「暇な奴ネ。行けよ、大串君探してたヨ」

「知らねぇなぁ。俺はしばらく委員会サボってたいんでさァ。」

「サボりかよっ！！！」

もちろんサボりなんかではない。
いや、結果的にサボりになってるんだけども。
俺はただ、本を大量に持ちながら静かに走り回る、
お前を見ていたいだけ。
少しでも多く、お前と一緒に過ごしたいだけ。
こんな気持ち、お前は持っていないのだろう。
こんな気持ちを言い出せずにいる、俺は不器用だ。

（後書き）

中途半端！！！

お付き合い頂き有難うございました！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8092d/

不器用な僕。（沖神）

2010年10月21日23時07分発行